# 中学１年　国語科　教材別テスト①　模範解答・解説

詩「朝のリレー」（谷川俊太郎）／光村図書『国語１』

**【このテストの使い方】**

本文は載せていません。**教科書『国語１』の「朝のリレー」のページを開いたまま**解答します。行番号は詩の一行目から順に①②③…と数えたものです。教科書を見ながら解くので、「読んで答えを探す力」ではなく「詩のしくみと表現を理解しているか」を確かめるテストになっています。

## 配点一覧

| 観点 | 大問 | 内容 | 配点 |
|---|---|---|---|
| 知識・技能<br>50点 | 一 | 漢字の読み書き（20問） | １点×20＝<br>20点 |
| | 二 | 漢字の知識（総画数・部首の位置・部首名） | ２点×５＝10<br>点 |
| | 三 | A　日本語の音声（母音・子音・アクセント）／B　語句（同音異義の熟語を使った短文完成） | ２点×10＝<br>20点 |
| 思考・判断・<br>表現<br>50点 | 四 | 詩「朝のリレー」の読解 | 50点 |
| **合計** | | | **100点** |

**【出題のねらい】**

① 詩の形式（口語自由詩）と連という用語を正しく覚えているか。
② 「朝／夜」を表す語句を手がかりに、地球上の時差という設定を読み取れるか。
③ 前半の**具体的**な情景描写と、後半の**抽象的**なまとめという構成の対比に気づけるか。
④ 「リレー」「バトン」という比喩（擬人法的な見立て）が何をたとえているかを説明できるか。
⑤ 指示語（それ）と、ひらがなの言葉（いわば・ひととき）の意味を文脈から判断できるか。

## 一　漢字の読み書き（１点×20＝20点）

| | | | |
|---|---|---|---|
| ① | **おせん** | ② | **がんこ** |
| ③ | **すみ（やか）** | ④ | **くのう** |
| ⑤ | **くわだ（てる）** | ⑥ | **あざ（やかな）** |
| ⑦ | **びょうしゃ** | ⑧ | **あんたい** |
| ⑨ | **かいほう** | ⑩ | **だぼく** |
| ⑪ | **童謡** | ⑫ | **傑作** |
| ⑬ | **悪癖** | ⑭ | **頭髪** |
| ⑮ | **超人** | ⑯ | **明星** |
| ⑰ | **懸命** | ⑱ | **愉快** |
| ⑲ | **複雑** | ⑳ | **衝撃** |

**【注意したい字】**

⑬「悪癖」の「癖」は、やまいだれの中が「辟」。⑯「明星」は「みょうじょう」と読む特別な読み方（「明けの明星」は夜明け前の金星）。⑰「懸命」を「賢明」と書くと別の意味（かしこいこと）になる。⑳「衝撃」の「衝」を「衡」と書かない。

## 二　漢字の知識（２点×５＝10点）

| 問 | 解答 | 解説 |
|---|---|---|
| (1) | **ア　→　エ　→　ウ　→　イ** | 疲＝10画（やまいだれ５＋皮５）、眺＝11画（目５＋兆６）、琴＝12画（玨８＋今４）、輝＝15画（光６＋軍９）。【完答】 |
| (2) | **ア（へん）** | 「悩」の部首は「忄（りっしんべん）」。左側にあるので「へん」。 |
| (3) | **カ（にょう）** | 「起」の部首は「走（そうにょう）」。左から下へ回りこむ形なので「にょう」。 |
| (4) | **こころ** | 「思」の部首は「心」。下にあるので正式には「こころ（したごころではない）」。 |
| (5) | **りっとう** | 「利」の部首は「刂」。「刀」が立った形なので「りっとう」。 |

## 三A　日本語の音声（２点×５＝10点）

| 問 | 解答 | 解説 |
|---|---|---|
| (1) | **母音** | 日本語の母音は ａ・ｉ・ｕ・ｅ・ｏ の五つ。 |
| (2) | **子音** | 日本語の音は、ふつう〈子音＋母音〉の組み合わせでできている（例：ｋ＋ａ＝か）。 |
| (3) | **アクセント** | 語の中の音の高低がアクセント。文全体の調子は「イントネーション」で、区別して覚える。 |
| (4) | **文の最後を上げる（とよい。）** | 「文末を上げて発音する」なども可。質問や疑いを表すときは文末を上げる。八字。 |
| (5) | **イ** | 強調したい言葉は、ゆっくり・はっきり・やや強く発音する。前後に間（ま）をおくのも効果的。 |

## 三B　語句・短文完成（２点×５＝10点）

| 問 | 解答 | 解説 |
|---|---|---|
| ① | **発展** | ものごとがより大きく、さかんになること。 |
| ② | **展望** | 「将来の展望」＝これから先の見通し。④の「眺望」と区別する。 |
| ③ | **放出** | ためこんでいたものを外に出すこと。 |
| ④ | **眺望** | 「眺望」＝遠くまで見わたしたときの景色そのもの。実際の景色には「眺望」を使う。 |
| ⑤ | **捻出** | 苦心してお金や時間をつくり出すこと。語群の「シンコウ（振興）」は使わない。 |

## 四　詩「朝のリレー」の読解（50点）　その 1

| 問 | 解答 | 解説 |
|---|---|---|
| (1)<br>3 点 | **口語自由詩** | 用いる言葉で「口語詩／文語詩」、形式で「定型詩／自由詩」に分ける。この詩は現代の話し言葉で、音数の決まりもないので「口語自由詩」。 |
| (2)<br>3 点 | **谷川俊太郎** | 「俊」「郎」の字に注意。ひらがなで書いたものは不可。 |
| (3)<br>4 点 | **きりんの夢　・　寝がえり** | 「夢を見る」「寝がえりをうつ」のはどちらも眠っているとき。順不同。【完答】 |
| (4)<br>4 点 | **朝もや　・　朝陽** | 「朝もや」は明け方に立ちこめるもや、「朝陽」は朝日。順不同。【完答】 |
| (5)<br>3 点 | **ウ** | 「いわば」＝「言ってみれば・例えるならば」。実際に守っているのではなく、たとえとして言っている。 |

## 四　詩「朝のリレー」の読解（50点）　その 2

| 問 | 解答 | 解説 |
|---|---|---|
| (6)<br>6 点 | **（例）地球ではいつもどこかで朝がはじまっているということ。（26字）** | 前半は、カムチャツカ・メキシコ・ニューヨーク・ローマという四つの具体例を並べたうえで、⑨⑩行目でそれらをまとめている。まとめの二行の内容を書けばよい。 |
| (7)<br>3 点 | **エ** | 「交替で」は時差のこと。眠っている人のかわりに、朝をむかえた人が起きている。世界の人々が朝でつながっているという意味。アは「自然」が、イ・オは詩にない内容。 |
| (8)<br>3 点 | **イ** | 「ひととき」＝ちょっとの間。「一時間」と決まった長さではない。 |
| (9)<br>4 点 | **目覚時計のベル** | 直前の⑮行目の内容を指す。七字ちょうどで抜き出す。「目覚時計」（4 字）だけでは不可。 |
| (10)<br>2 点<br>× 3 | **ア　眠る**<br>**イ　だれか（誰か）**<br>**ウ　朝をむかえている（8 字）** | 「あなたが眠るとき、地球のどこかではだれかが朝をむかえている」という時差の関係をまとめる。ウは「朝をむかえる」「目を覚ましている」なども可。 |
| (11)<br>4 点 | **ぼくら　・　あなた** | 前半は「若者・娘・少女・少年」と他人を指す言葉ばかりだが、後半で「ぼくら」「あなた」と読者をふくむ言葉に変わる。順不同。【完答】 |

## 四　詩「朝のリレー」の読解（50点）　その２（つづき）

| 問 | 解答 | 解説 |
|---|---|---|
| (12)<br>７点 | **ア　朝をリレーする（７字・２点）**<br>**イ　バトン（２点）**<br>**ウ　朝（１点）**<br>**エ　ウ（具体的）（１点）**<br>**オ　ア（抽象的）（１点）** | イは詩に出てこない言葉を自分で考える問題。リレー競技から連想する「バトン」が入る。ウは⑭〜⑰行目から一字で抜き出す。エ・オは、前半＝四つの国の具体的な情景、後半＝「地球」「ぼくら」という抽象的なまとめ、という構成の対比。 |

**知識・技能　50点　／　思考・判断・表現　50点　／　合計　100点**

**【採点基準】記述問題**

(6)　①「地球（世界）では」という場所、②「いつもどこかで」という時間、③「朝がはじまっている」という内容、の三つがそろって６点。①または②が抜けていれば４点。③だけなら２点。字数（20〜28字）をはずれたものは２点減。文末が「〜こと。」でないものは１点減。

(10)ウ　「朝をむかえている」「朝になっている」「目を覚ましている」など、〈あなたが眠っている時刻に、その人は朝である〉という関係が書けていれば正解。字数（５〜８字）をはずれたものは不可。

(12)イ　「バトン」のみ正解。「たすき」は駅伝のものなので不可とする。

**【この教材で落としやすいポイント（８つ）】**

1. **「口語自由詩」を五字で答える。**「自由詩」「口語詩」だけでは不十分。〈言葉＝口語／文語〉と〈形式＝自由／定型〉を必ずセットで覚える。
2. **連（れん）と行の区別。** まとまりが「連」、一行が「行」。「段落」と書かないこと。
3. **抜き出しは字数ちょうどで。** (3)は「きりんの夢」（５字）、(9)は「目覚時計のベル」（７字）。前後を一字多く書くだけでバツになる。
4. **「いわば」は「例えるならば」。**「いわば」を「言わなければ」と読みちがえないこと。「交替で地球を守る」は本当に見張っているのではなく、たとえ。
5. **「ひととき」は短い時間。**「一時」という漢字から「一時間」と考えてしまう人が多い。
6. **指示語は必ず直前をさがす。**「それ」（⑯行目）は、すぐ前の⑮行目「目覚時計のベル」。あとの「あなたの送った朝」を答えにしないこと。
7. **前半＝具体／後半＝抽象。** 四つの国名が並ぶ前半が具体的、「この地球」「ぼくら」でまとめる後半が抽象的。逆に答える人が多い。
8. **「ぼくら」「あなた」に気づく。** 遠い国の話が、読者自身の話に変わるしかけ。この二語が詩のテーマをささえている。